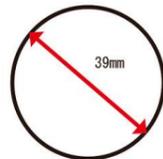


家の中の事故を防ぎましょう

子どもにとって安心して過ごせる家の中が、じつは事故の危険の高い場所だということをご存じでしょうか？ 0～6歳の子どもの事故の約40%は、家の中で起こっています。

家の中で起こる事故はさまざまですが、特に命にかかわるのが、窒息です。0歳児が圧倒的に多いものの、1歳児、2歳児でもゼロではありません。家の中を安全・安心な場所にするために、もう一度チェックしてみてください。

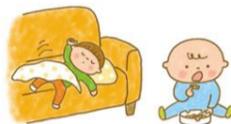


小さいものはしっかり管理

3歳の子どもの口の大きさは約4cm。これより小さなものは、子どもの手の届かないところに保管しましょう。ボタン電池、ナッツ類、たばこ、薬など身近なものでも飲み込むと危険なものはたくさんあります。

リビングなど

ソファやベビーベッドから落ちたり、たばこを飲み込んだりといった事故がよくあります。



キッチン

炊飯器や電気ポットなど、調理器具によるやけどが多い場所。



浴室

残り湯に落ちる、入浴中にちょっと目を離したすきにおぼれるなど、水の事故の危険があります。



ベランダ

台などによって手すりを超える事故が、3歳以降急増します。危険なものがないかチェックしましょう。



子どもの事故を防ぐヒントは「ヒヤッと」にあり！

子どもがけがをしそうで「ヒヤとした」ときこそ、次の事故を防ぐチャンスです。「無事でよかった」とすませるのではなく、なぜヒヤとしたのかを見直しましょう。

① 「ダメ！」「危ない！」は“そこが危険”のサイン

子どもを叱って制止するよりも、ものの置き場所を変えるなど、子どもが安全に過ごせるよう環境を整えましょう。



② 一度あれば二度、二度あることは三度ある

危ないと思ったら、必ず理由や経緯を考えましょう。原因がわかれば対策がとれます。対策をしないと大きな事故につながる危険がそのままに。



③ 大人もいっしょにやってみる

子どもが過ごす場所が安全かどうか、子どもの目の高さでチェックしてみましょう。道具やおもちゃは、一緒に遊んで正しい使い方を示しましょう。



手足口病

にご注意を

乳幼児の間に流行するウイルス性の夏かぜの一種で、飛沫感染します。手・足・口に小さな（米粒大）の発しんや水ぼうがができる手足口病。実は、おりや皮膚の柔らかい所にもできたり、痛みやかゆみを伴い発熱したりすることもあります。口の中の水ぼうが痛むときは、プリンや野菜スープなどのどごしの良いものを。また、治った後も、2～4週間くらいは便にウイルスがいます。感染力が強いので何度もかかる可能性があります。



画像：ほけんだより 12か月より引用



おむつの処理のポイントは「素早く、丁寧に」です。おむつの処理は、汚れた面が外に出ないように丸め、二重にしたポリ袋に入れましょう。おむつ替えの後は、せっけんで30秒以上しっかり手を洗い、うがいをしてください。



子育て通信

にこにこ

179号

9月号

子育て通信「にこにこ」は、胎内市ホームページからもご覧いただけます！

発行 子育て支援課 子育て支援係
TEL43-6111(内線1261) R4.8.25



「胎内市子育て支援事業」「胎内市男女共同参画事業」

親子ふれあい音楽遊び

7月13日(水)、総合体育館ふれすぽ胎内で未就園児とその保護者を対象に親子ふれあい音楽遊びが開催されました。広い体育館で遊んだり、市内子育て支援センタースタッフによる音楽遊びを楽しんだり、楽しいひと時を過ごしました。

